

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し 言語化できるようになるのか

—— 実習報告書のテキストマイニングを通して確認できること ——

久保隆志

要旨

本研究の目的は、相談援助実習終了後の実習生が作成する実習報告書のテキストマイニングを通して、実習終了後に形成されると考えられる利用者の権利等に関連する記述を探索し出現状況を把握することにある。同時にそれらの探索を行うことにより、利用者の権利等に関する意識の形成方法について若干の整理を行うことで以降の研究方法を検討していくことを目的とした。

テキストマイニングの対象となった実習報告書は、A大学三年次生18名とB大学三年次生32名が相談援助実習終了後に作成したものである。結果として相談援助実習を終えた実習生が、利用者の権利等について認識し、それらを言語化することに一定の限界があることを見出した。また一般社団法人日本社会福祉士養成校協会が受託した、(公財)社会福祉振興・試験センター平成26年度社会福祉振興関係調査研究助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する調査事業」の調査研究からも同様のことを確認することができた。

以上のことを踏まえて実習生が利用者の権利等について認識する方法を模索した。

キーワード：実習報告書、テキストマイニング、利用者、権利等、言語化

I. はじめに

2008年には、現行の社会福祉士養成課程の教育カリキュラム（以下、新カリキュラム）導入に合わせてカリキュラムの見直しが提案された¹⁾。その中で、社会福祉士に求められる社会的な役割の変化と養成課程に関する変化が明記されている。

前者に関しては①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援す

るなど、その解決を自ら支援する役割、②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割、③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割等を適切に果たしていくことが求められている。

また後者に関しては①福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性、その在り方等に係る専門的知識、②虐待防止、就労支援、権利擁護、孤立防止、生きがい創出、健康維持等に関わる関連サービスに関わる基礎的知識、③福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、利用者の自立支援の観点から地域において適切なサービスの選択を支援する技術、④サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術、⑤地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術、⑥専門職としての高い自覚と倫理の確立や利用者本位の立場に立った活動の実践等を実践的に教育していく必要があるとされている。

さらに2007年の段階では「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」（平成19年法律第125号）が公布、施行された。同法では、社会福祉士の義務規定の見直しが行われ、誠実義務の概念が新たに追加された。誠実義務はその担当する者が個人の尊厳を保持し、その有する能力及び適性に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、常にその者の立場に立って、誠実にその業務を行わなければならないとされている（社会福祉士及び介護福祉士法 第44条2項）。

このように現行の社会福祉士養成課程と社会福祉士に関連する規定には、利用者²⁾の「人権」³⁾や「権利」⁴⁾に関する記述が確実に見受けられる（以下、利用者の権利等⁵⁾）。

新カリキュラムでは、関連する多くの科目において利用者⁶⁾の権利等に関して学ぶ機会が設定されている。つまり社会福祉士養成に関連する科目を履修することによって、知識として利用者の権利等に関して触れることができるはずなのだ。

また日本では義務教育の段階から人権教育⁷⁾が行われ、それに即して自らのみならず他者の権利等に関する意識についても醸成される基盤が存在する。本論ではその基盤の是非について論じることが行わない。しかし、そういった基盤があることは重要であるのと同時に社会福祉士養成のシステムにも一定の影響があるのも事実だと考えている。

前述してきたように、新カリキュラム上で利用者の権利等を学ぶ以前から第三者のそれに配慮するための教育的なシステムが既に成立しているのである。

ところが新カリキュラムに設定されている相談援助実習では実習前、実習中、実習後を通して実習生の自発的な発言として利用者の権利等に関する話題を確認することが難しい。例えば相談援助実習中の実習巡回や帰校日指導の段階で言及されやすい内容としては、利用者との関係性、職員との関係性や実習中の苦痛等の直接的な体験に伴う比較的言語化しやすいものである。直接的な体験は言及されやすく、同時に伝えやすい内容であるためだと推測される。

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

利用者の権利等に関しては、そもそも認識が難しく、実習中においても直接的な体験をすることも少ない。仮に直接的な体験があったとしても、それを言語化するための妥当な概念が備わっていないとも思われる。

そもそも利用者の権利等と言っても、想起される内容は多岐に渡るだろう。例えば法学的な視点、社会学的な視点で分類してもよい。人権や子ども権利、生存権という者もいるかもしれない。また実習生が利用者の権利等を認識するとき、何を想定しているのだろうか。そして実習生は利用者の権利等を感じ取るための環境を与えられているのであろうか。

本研究では、前述したような複雑な要因を検討する前段階として実習報告書内に利用者の人権等に関連する記述の有無をテキストマイニングの手法を用いて探索していきたい。言語化された情報をテキストマイニングにより、可視化することが可能となる。具体的には、相談援助実習終了後に実習生が作成した実習報告書を通して、利用者の権利等に関する記述量の確認を行うのと同時に、実習生に利用者の権利等を想起してもらうための方法を模索したい。

1. 先行研究

先行研究を確認するために CiNii を用い、以下の二点について整理した。文中の CiNii に関する記述は、2015 年 10 月 31 日現在の検索結果である。

1) 実習生が認識する利用者の権利等について：

CiNii のウェブサイトでは、①「実習」と「人権」、②「実習」と「権利」、③「実習」と「尊厳」という三通りの検索を行った。いずれの組み合わせの場合も、タイトルに該当する単語が含まれることを前提とした。

①は 23 件（1973 年から 2015 年発表）、②は 31 件（2000 年から 2015 年発表）、③は 1 件（2000 年発表）となった。

さらに今回の研究と関連があると思われる福祉、医療、保育、教育等の語彙で検索対象を限定した場合は、次の通りである。①は 13 件、②は 15 件、③は 1 件であった。

ここでいう「実習生」は相談援助実習の実習生を想定した。しかし上記検索方法では新カリキュラムで行われている相談援助実習の実習生を同定できる記述は見受けられなかった。

いずれの分野によらず、実習生が利用者の権利等を認識する重要性和教育上の課題が存在することは明らかになった（村上ら 2000、村田 2012、吉村ら 2014）。

さらに実習生はいわゆる現場において利用者の権利等に関して何らかの侵害的行為を見聞きしており、養成組織による人権教育の充実が必要との研究結果もあった（大和田ら 2008）。

また実習生のみならず現場の職員も利用者の権利等に対して曖昧な理解レベルであり、時としてそれを侵害してしまう可能性も示唆されていた（山本 2011）。

2) 実習報告書とテキストマイニングについて：

CiNii のウェブサイトで、「実習」「報告」「社会福祉」という語彙をタイトルに含んでいる文献を検索した。その結果は51件であった(1985年から2014年発表)。社会福祉士養成課程の実習終了後に作成される実習報告書を明確に使用したタイトルは1件のみであった(2009年発表)。検索対象をフリーワードまで広げ、かつ「実習」「報告書」「社会福祉」という語彙に変更した場合は8件まで増加した。

同様にCiNiiのウェブサイトで、「実習」「テキストマイニング」という語彙をタイトルに含んでいる文献を検索した。その結果は27件であった(2007年から2015年発表)。いずれも薬学、看護、保育、教育の分野であり社会福祉に関する直接的な検索結果はなかった。また当該検索結果の調査対象は実習中に作成された日誌や自由記述式のアンケートによるものが大半である。

しかし、調査対象の資料が異なる部分があるがテキストマイニングを用いて実習関連の資料を調査することに関しては、一定の有益性が認められた(大瀧ら2009, 秦ら2013)。

実習終了直後の時間的経過を経ていない文章(自由記述)を使用することにより、比較的近時の実習情報を集約し分析することができる。同時に大量の文章を一定の手続きを経ることにより、客観性の保持と恣意性を極力排除しながら分析することができる。テキストマイニングの機械的な処理において一定集団の属性や傾向を明らかにすることにより課題やニーズ等を把握することも可能となる(長野ら2000)。

実習報告書とテキストマイニングを用いた分析手法は比較的新規性が高いといえる。

なおCiNiiで検索できなかった資料については、省略している。

次からは、実習報告書のテキストマイニングを行う研究方法についてみていきたい。

II. 研究方法

1. 調査対象と方法

筆者が2014年度に相談援助実習指導及び相談援助実習を担当したA大学 社会福祉学部 社会福祉学科(N=18)と2012年度に両科目を担当していたB大学 人文学部 福祉文化学科(N=32, B大学1=13, B大学2=19)の授業内で作成された実習報告書を調査対象とした(合計N=50)。A大学は2014年度作成の実習報告書を、B大学は2012年度作成の実習報告書を使用している。

A大学およびB大学の実習報告書の概要および施設区分等の内訳は、表1の通りである。

前述した実習報告書内部に登場する語彙情報を整理するために、テキスト型(文章型)データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアであるKH Coder(Ver.2.00c, 以下KH)⁸⁾を用いた(樋口2015)。

樋口(2015)のテキストマイニングによる分析手続きを参考にしつつ、A大学、B大学1お

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

表1 実習報告書の概要

	A大学 (A4版2頁)	B大学1 (A4版2頁)	B大学2 (A4版2頁)
年度	2014年度	2012年度	2012年度
施設区分	計18名分 (高齢=3名, 障害=15名)	計13名 (医療=5名, 高齢=8名)	計19名 (高齢=2名, 地域=17名)
記述項目名	1 実習施設の概況と特徴	実習施設(機関)の概要	実習施設(機関)の概要
	2 実習の内容	実習内容(プログラム)	実習内容(プログラム)
	3 実習課題の達成度	実習の課題	実習の課題
		※実習課題を整理するとともに課題の自己評価を記述させていた。	
	4 利用者・職員と関わる中で感じたこと, 学んだこと	実習を通して学んだこと	実習を通して学んだこと
5 今後の課題	今後の課題	今後の課題	
備考①	※1. A大学の施設区分=高齢は特別養護老人ホームへ3名, 障害は生活介護へ10名, 就労継続支援B型へ5名の配属であった。 ※2. B大学1の施設区分=医療は病院へ5名, 高齢は特別養護老人ホームへ8名の配属であった。 ※3. B大学2の施設区分=高齢は特別養護老人ホームが1名, 小規模多機能型居宅介護が1名, 地域は市町村社会福祉協議会が17名の配属であった。		
備考②	※1. A大学とB大学1およびB大学2の各指定項目名は異なるため, 全てA大学の項目名に統一をした。 ※2. 調査対象は, 筆者の担当クラスのうち研究調査資料として提供の許可があった実習生の報告書のみを使用している。 ※3. A大学とB大学1およびB大学2の実習報告書ともに作成段階において誤字脱字の添削(記述項目名1~5)を行っている。それ以外の表現に関しては可能な限り学生が作成してきた原文に近い状態とし, 加筆修正が必要な場合には学生と協議を行ったうえでやっている(記述項目3~5)。また平均して3回程度の添削を行った。		

およびB大学2の個別での傾向を分析の対象とした。なおKH内の標準分析ツールを用いて①基本統計量, ②頻出150語, ③特徴語, ④共起ネットワーク, そして⑤KWIC(Keyword in context)コンコーダンスの分析を行った。

なお, 分析対象とした実習報告書データは可能な限り原文のまま使用した。ただし, 表1の備考①『※1.』にもあるようにA大学, B大学1およびB大学2の記述項目名に関しては全てA大学の記述項目に統一した。また備考②『※3.』にあるように学生の思いや感情等を大切に, 可能な限り提出されてきた状態のまま受理している報告書となる。

分析の段階では固有名詞, 人名, 組織名, 地名に関しては品詞による語の取捨選択から除外した。強制抽出する語として人権, 権利, 尊厳, 尊重, 成年後見, 日常生活, 自立という権利等を想起させる語彙を設定した。

2. 倫理的配慮

A大学, B大学1およびB大学2において実習報告書を研究分析に用いること, プライバシーを保護し学生や利用者, 実習施設に不利益が生じないようにすることを説明し, 事前の了解を得ておいた。分析時には, 固有名詞や地名, 人名等が出現ないように処理を行った。

3. 分析結果

1) 基本統計量：

表2はKHの形態素解析の結果である。A大学、B大学1およびB大学2の順番に掲載している。

なお、表の下段にあるH2とH1はKH特有のHTMLマーキングである。見出し部分を含めるためのH1からH5までの5種類のタグが用意されており、今回の分析ではH1とH2を使用した。H1は大学区分のために、H2は実習報告書内に設定されている記述項目名を区分するために使用した(表1)。

表2 抽出語の基本統計量

	A大学	B大学1	B大学2
総抽出語数(使用)	24,530 (9,787)	17,845 (7,344)	25,834 (11,452)
異なり語数(使用)	1,854 (1,189)	1,834 (1,387)	2,212 (1,726)
抽出語の出現回数の平均	6.57	5.29	6.63
抽出語の出現回数の標準編	26.77	16.29	24.53
集計単位：文	904	667	9.0
集計単位：段階	124	91	133
集計単位：H2	142	104	152
集計単位：H1	1	1	1

※1. タグH1はA大学、B大学1、B大学2の目印として使用した。
 ※2. タグH2は実習報告書の記述項目名にある「実習施設の概況と特徴」「実習の内容」「実習課題の達成度」「利用者・職員と関わる中で感じたこと、学んだこと」「今後の課題」の目印として使用した。
 ※3. 実際の使用方法は例えばタグH2の場合<h2>○○○タイトル等○○○</h2>となる。

2) 抽出語の出現回数と度数：

表3は抽出語の出現回数と度数の状況である。A大学とB大学1およびB大学2ともに比較的安定した数値となっている。

3) 頻出150語：

表4はA大学、B大学1およびB大学2の上位150語を抽出したものである。それぞれ「利用」や「実習」という単語が上位をしめている。特徴的なのは、B大学2の頻出語に「権利」や「擁護」という単語があることだ。おそらく当該グループの場合には社会福祉協議会での実習生が大半を占めており、権利擁護事業や関連する成年後見制度の事業があるためだと思われる。

4) 特徴語：

表5、表6、表7はそれぞれのグループにおける特徴的な語彙を抽出したものである。共起尺度の一つであるJaccard係数によって抽出されている(それぞれ上位10語がリスト化されている)。なお、各表内の全ての項目が前出のH2タグを用いて区分している。

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

表 3 抽出語の出現回数と度数

A大学出現回数					B大学1出現回数					B大学2出現回数				
出現回数	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント	出現回数	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント	出現回数	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	694	46.61	694	46.61	1	676	48.74	676	48.74	1	791	45.83	791	45.83
2	229	15.38	923	61.99	2	241	17.38	917	66.11	2	290	16.8	1081	62.63
3	145	9.74	1068	71.73	3	109	7.86	1026	73.97	3	157	9.1	1238	71.73
4	94	6.31	1162	78.04	4	67	4.83	1093	78.8	4	79	4.58	1317	76.3
5	40	2.69	1202	80.73	5	54	3.89	1147	82.7	5	56	3.24	1373	79.55
6	37	2.48	1239	83.21	6	39	2.81	1186	85.51	6	53	3.07	1426	82.62
7	34	2.28	1273	85.49	7	34	2.45	1220	87.96	7	29	1.68	1455	84.3
8	30	2.01	1303	87.51	8	9	0.65	1229	88.61	8	38	2.2	1493	86.5
9	15	1.01	1318	88.52	9	11	0.79	1240	89.4	9	21	1.22	1514	87.72
10	16	1.07	1334	89.59	10	12	0.87	1252	90.27	10	19	1.1	1533	88.82
11	10	0.67	1344	90.26	11	13	0.94	1265	91.2	11	18	1.04	1551	89.86
12	5	0.34	1349	90.6	12	8	0.58	1273	91.78	12	10	0.58	1561	90.44
13	9	0.6	1358	91.2	13	9	0.65	1282	92.43	13	8	0.46	1569	90.9
14	18	1.21	1376	92.41	14	2	0.14	1284	92.57	14	14	0.81	1583	91.71
15	2	0.13	1378	92.55	15	4	0.29	1288	92.86	15	10	0.58	1593	92.29
16	7	0.47	1385	93.02	16	4	0.29	1292	93.15	16	8	0.46	1601	92.76
17	7	0.47	1392	93.49	17	7	0.5	1299	93.66	17	10	0.58	1611	93.34
18	7	0.47	1399	93.96	18	6	0.43	1305	94.09	18	8	0.46	1619	93.8
19	8	0.54	1407	94.49	19	5	0.36	1310	94.45	19	10	0.58	1629	94.38
20	6	0.4	1413	94.9	20	7	0.5	1317	94.95	20	6	0.35	1635	94.73
21	3	0.2	1416	95.1	21	7	0.5	1324	95.46	21	6	0.35	1641	95.08
22	4	0.27	1420	95.37	22	6	0.43	1330	95.89	22	4	0.23	1645	95.31
23	2	0.13	1422	95.5	23	2	0.14	1332	96.03	23	7	0.41	1652	95.71
24	2	0.13	1424	95.63	24	5	0.36	1337	96.4	24	4	0.23	1656	95.94
25	2	0.13	1426	95.77	25	3	0.22	1340	96.61	25	2	0.12	1658	96.06
26	2	0.13	1428	95.9	26	1	0.07	1341	96.68	26	1	0.06	1659	96.12
27	1	0.07	1429	95.97	27	1	0.07	1342	96.76	27	2	0.12	1661	96.23
28	5	0.34	1434	96.31	28	2	0.14	1344	96.9	28	5	0.29	1666	96.52
29	2	0.13	1436	96.44	29	2	0.14	1346	97.04	29	2	0.12	1668	96.64
30	1	0.07	1437	96.51	30	1	0.07	1347	97.12	30	4	0.23	1672	96.87
31	3	0.2	1440	96.71	32	2	0.14	1349	97.26	32	2	0.12	1674	96.99
32	2	0.13	1442	96.84	33	2	0.14	1351	97.4	33	2	0.12	1676	97.1
33	4	0.27	1446	97.11	34	1	0.07	1352	97.48	34	1	0.06	1677	97.16
34	1	0.07	1447	97.18	35	1	0.07	1353	97.55	35	2	0.12	1679	97.28
35	4	0.27	1451	97.45	36	2	0.14	1355	97.69	36	1	0.06	1680	97.33
36	1	0.07	1452	97.52	37	1	0.07	1356	97.76	37	1	0.06	1681	97.39
37	2	0.13	1454	97.65	39	1	0.07	1357	97.84	38	1	0.06	1682	97.45
38	2	0.13	1456	97.78	41	1	0.07	1358	97.91	41	1	0.06	1683	97.51
39	1	0.07	1457	97.85	42	2	0.14	1360	98.05	42	2	0.12	1685	97.62
43	1	0.07	1458	97.92	43	1	0.07	1361	98.13	43	1	0.06	1686	97.68
44	1	0.07	1459	97.99	44	2	0.14	1363	98.27	44	1	0.06	1687	97.74
52	1	0.07	1460	98.05	45	1	0.07	1364	98.34	47	1	0.06	1688	97.8
53	1	0.07	1461	98.12	48	1	0.07	1365	98.41	48	1	0.06	1689	97.86
56	1	0.07	1462	98.19	49	1	0.07	1366	98.49	49	2	0.12	1691	97.97
58	1	0.07	1463	98.25	52	1	0.07	1367	98.56	50	3	0.17	1694	98.15
62	3	0.2	1466	98.46	53	1	0.07	1368	98.63	52	2	0.12	1696	98.26
63	2	0.13	1468	98.59	55	1	0.07	1369	98.7	56	1	0.06	1697	98.32
75	1	0.07	1469	98.66	56	1	0.07	1370	98.77	57	1	0.06	1698	98.38
78	1	0.07	1470	98.72	57	1	0.07	1371	98.85	59	1	0.06	1699	98.44
79	1	0.07	1471	98.79	59	1	0.07	1372	98.92	71	1	0.06	1700	98.49
81	1	0.07	1472	98.86	60	1	0.07	1373	98.99	72	1	0.06	1701	98.55
82	2	0.13	1474	98.99	68	2	0.14	1375	99.13	74	2	0.12	1703	98.67
85	1	0.07	1475	99.06	72	1	0.07	1376	99.21	76	1	0.06	1704	98.73
95	1	0.07	1476	99.13	80	1	0.07	1377	99.28	80	1	0.06	1705	98.78
100	1	0.07	1477	99.19	81	1	0.07	1378	99.35	85	1	0.06	1706	98.84
106	1	0.07	1478	99.26	82	1	0.07	1379	99.42	87	1	0.06	1707	98.9
116	2	0.13	1480	99.4	85	1	0.07	1380	99.5	89	1	0.06	1708	98.96
119	1	0.07	1481	99.46	92	1	0.07	1381	99.57	99	1	0.06	1709	99.02
120	1	0.07	1482	99.53	97	1	0.07	1382	99.64	106	1	0.06	1710	99.07
163	1	0.07	1483	99.6	121	1	0.07	1383	99.71	109	1	0.06	1711	99.13
186	1	0.07	1484	99.66	142	1	0.07	1384	99.78	112	1	0.06	1712	99.19
205	1	0.07	1485	99.73	169	1	0.07	1385	99.86	113	1	0.06	1713	99.25
215	1	0.07	1486	99.8	182	1	0.07	1386	99.93	120	1	0.06	1714	99.3
283	1	0.07	1487	99.87	395	1	0.07	1387	100	141	1	0.06	1715	99.36
527	1	0.07	1488	99.93						144	1	0.06	1716	99.42
630	1	0.07	1489	100						152	3	0.17	1719	99.59
										154	1	0.06	1720	99.65
										198	1	0.06	1721	99.71
										200	1	0.06	1722	99.77
										227	1	0.06	1723	99.83
										339	1	0.06	1724	99.88
										381	1	0.06	1725	99.94
										588	1	0.06	1726	100

表4 上位150の抽出語

A大学抽出語				B大学1抽出語				B大学2抽出語					
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
利用	527	持つ	28	ホーム	14	利用	182	同行	23	種別	13	福祉	381
支援	263	役割	28	意思	14	実習	169	関係	22	話す	13	地域	339
実習	215	法人	27	違う	14	学ぶ	142	機能	22	会話	12	事業	227
施設	163	働く	26	観察	14	支援	97	計画	22	関わり	12	社会	200
職員	120	福祉	26	気持ち	14	施設	92	取る	22	向ける	12	実習	198
学ぶ	119	参加	25	合わせる	14	患者	82	特別	22	退院	12	利用	154
障害	116	時間	25	作る	14	介護	81	必要	22	把握	12	支援	144
理解	106	理念	24	自立	14	気持ち	72	気持ち	21	流れ	12	協議	141
考える	100	大学	23	質問	14	行う	68	居宅	21	改めて	11	学ぶ	120
計画	95	立てる	23	喋る	14	病院	68	高齢	21	学習	11	活動	112
行う	85	対応	22	他	14	課題	60	作成	21	感情	11	施設	109
感じる	82	築く	22	提供	14	理解	59	情報	21	機関	11	課題	99
個別	82	伝える	22	難しい	14	相談	57	大学	21	気	11	感じる	89
生活	81	様子	22	表情	14	医療	56	見学	20	見学	11	行う	87
作業	79	区分	21	話	14	感じる	55	見る	20	自ら	11	知る	85
課題	78	言語	21	一人ひとり	13	地域	53	今回	20	職種	11	職員	80
信賴	75	信賴	21	言う	13	家族	49	専門	20	対応	11	参加	76
関わる	63	見守る	20	高齢	13	連携	48	法人	20	担当	11	高齢	74
実際	63	現場	20	主	13	福祉	45	面談	20	入院	11	住民	74
知る	62	種別	20	場	13	事業	44	様々	20	入所	11	サービス	71
必要	62	出来る	20	担当	13	老人	44	ニーズ	19	能力	11	理解	59
地域	58	方法	20	注意	13	月	43	視点	19	センター	10	センター	57
関係	56	運営	19	同士	13	自分	42	人	19	マネジャー	10	介護	56
内容	52	会議	19	入所	13	知る	42	説明	19	過程	10	人	52
人	44	概況	19	それぞれ	12	思う	41	環境	18	会議	10	生活	52
就労	43	機関	19	援助	12	職員	39	自宅	18	機会	10	考える	50
関わり	39	拠点	19	学習	12	社会	37	重要	18	経験	10	思う	50
作成	38	行動	19	具体	12	業務	36	状況	18	持つ	10	内容	50
思う	38	自身	19	本人	12	知識	35	大切	18	勉強	10	関わる	49
活動	37	知的	19	スクウェア	11	訪問	34	聞く	18	立場	10	児童	49
実際	37	仕事	18	家族	11	ケア	33	ケース	17	連絡	10	ボランティア	48
介護	36	視点	18	会話	11	ホーム	33	技術	17	プラン	9	事務所	47
情報	35	取る	18	改めて	11	今後	32	達成	17	週	9	出来る	44
相談	35	声	18	繋がりが	11	内容	32	特徴	17	身	9	達成	43
大切	35	良い	18	見学	11	生活	30	方法	17	設定	9	今後	42
連携	35	継続	17	困難	11	考える	29	面接	17	伝える	9	必要	42
アセスメント	34	自閉症	17	性格	11	養護	29	問題	17	付ける	9	役割	41
事業	33	重要	17	面接	11	体験	28	調整	16	報告	9	様々	37
多い	33	積極	17	確認	10	年	28	保険	16	本人	9	推進	36
特性	33	把握	17	距離	10	関わる	27	アセスメント	15	目標	9	障害	35
特徴	33	様々	17	今	10	役割	26	受ける	15	運営	8	相談	35
ニーズ	32	過ごす	16	最初	10	現場	25	多い	15	観察	8	社協	34
達成	32	環境	16	使う	10	実際	25	提供	15	記録	8	ニーズ	33
今後	31	共有	16	実行	10	出来る	25	深める	14	言語	8	業務	33
社会	31	対象	16	場面	10	サービス	24	カンファレンス	13	行なう	8	関係	32
業務	30	知識	16	職種	10	援助	24	解決	13	指定	8	機関	32
自分	29	入居	16	食事	10	自身	24	概況	13	送迎	8	多い	30
目標	29	聞く	16	深い	10	制度	24	区分	13	中心	8	知識	30
サービス	28	制度	15	全体	10	話	24	今	13	認定	8	同行	30
見る	28	サービス	14	担う	10	参加	23	資源	13	アプローチ	7	自分	29

表5 A大学特徴語

施設区分	施設種別	1. 実習施設の概況と特徴	2. 実習の内容
障害	.259	介護	.371
高齢	.136	生活	.226
		B	.192
		継続	.172
		就労	.158
		老人	.130
		養護	.083
		特別	.083
		ホーム	.069
		従業	.053
3. 実習課題の達成度		5. 今後の課題	
目標	.478	感じる	.405
実際	.333	伝える	.364
達成	.333	大切	.360
見る	.321	改めて	.333
理解	.271	表情	.333
職員	.267	言う	.333
ニーズ	.267	情報	.308
課題	.265	職員	.302
計画	.255	学ぶ	.280
実習	.254	考える	.278
		サービス	.435
		法人	.429
		活動	.407
		提供	.400
		理念	.370
		日中	.350
		基本	.350
		事業	.345
		福祉	.321
		社会	.313
		業務	.478
		週	.375
		拠点	.368
		計画	.357
		個別	.349
		作成	.344
		役割	.320
		見学	.316
		内容	.273
		学ぶ	.260
		今後	.450
		思う	.300
		考える	.273
		知識	.273
		制度	.273
		自身	.259
		今回	.250
		信賴	.240
		感じる	.233
		課題	.229

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

表 6 B 大学 1 特徴語

施設区分		施設種別		1. 実習施設の概況と特徴		2. 実習の内容	
高齢	.471	ホーム	.214	年	.923	説明	.533
医療	.139	特別	.200	月	.647	訪問	.500
		老人	.194	法人	.529	同行	.500
		養護	.192	地域	.444	業務	.450
		病院	.152	理念	.385	参加	.444
		有料	.063	運営	.385	自宅	.438
				経営	.385	担当	.400
				指定	.385	見学	.385
				開設	.385	発表	.357
				入所	.313	カンファレンス	.353
3. 実習課題の達成度		4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、学んだこと		5. 今後の課題			
方法	.421	感じる	.476	思う	.500		
ソーシャルワ	.389	関係	.429	今後	.500		
役割	.350	大切	.412	知識	.429		
理解	.333	話	.389	今回	.400		
課題	.333	言う	.385	考える	.391		
援助	.304	思う	.375	コミュニケーション	.333		
流れ	.294	気持ち	.368	不足	.333		
内容	.273	必要	.368	身	.313		
知る	.269	関わる	.353	自分	.296		
学ぶ	.268	自分	.346	出来る	.294		

表 7 B 大学 2 特徴語

施設区分		施設種別		1. 実習施設の概況と特徴		2. 実習の内容	
地域	.168	単位	.895	月	.455	内容	.433
		区域	.850	年	.455	センター	.351
		市町村	.810	法人	.417	会議	.320
		事務所	.773	団体	.375	オリエンテーション	.316
		協議	.230	行政	.346	支援	.315
		社会	.205	民間	.316	介護	.314
		福祉	.174	社協	.296	説明	.300
		ホーム	.046	構成	.286	擁護	.296
		養護	.046	組織	.280	権利	.286
		小規模	.044	住民	.277	教室	.286
3. 実習課題の達成度		4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、学んだこと		5. 今後の課題			
ニーズ	.438	思う	.516	知識	.520		
役割	.438	子ども	.474	コミュニケーション	.457		
理解	.412	特に	.450	今後	.440		
下記	.368	印象	.450	身	.350		
学ぶ	.319	大切	.435	思う	.343		
課題	.311	聞く	.435	関わる	.333		
知る	.275	残る	.421	深める	.321		
テーマ	.273	違う	.409	積極	.308		
実習	.254	職員	.405	制度	.304		
方法	.241	感じる	.389	考える	.302		

5) 共起ネットワーク：

図 1, 図 2, 図 3 ともに共起ネットワーク分析の結果を示している。

KH ではノード数が大きいほど語彙の使用頻度が多いことを示している。また KH による共起ネットワーク媒介中心性が高い順に濃い灰色（原色＝ピンク）、白（原色＝白）、薄い灰色（原色＝水色）と表示される。

なお分析時には、最小出現数は 20、最小文書数が 1、集計単位は段落等と設定した。さらに品詞による取捨選択は「名詞、サ変名詞、形容動詞、ナイ形容、副詞可能、未知語、タグ、感動詞、動詞、形容詞、副詞、名詞 C」とし、描画数を 60 に設定している。これらを前提として図 1, 図 2, 図 3 の特徴を見ていく。

まず図 1 の分析対象 となった抽出語は 75 語、描画されている抽出語を示すノード (node) の

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

コミュニケーション」「実習」等であった。

6) KWIC (Keyword in context, 以下 KWIC) コンコーダンス

KWIC は分析対象のファイル内で抽出語がどのように用いられているのかという文脈を探ることができる。この際、必要に応じて特定の品詞や、特定の活用形で出現しているものだけを検索できる。また、抽出語を指定せずに品詞や活用形だけを指定して検索を行うこともできる。

今回は3) の B 大学2 で抽出された語彙のうち「権利」を用いた。「権利」という語彙は、本研究の中でもキーワードとなるためである。

本来は図4にあるような画面において抽出語を入力することにより、結果がわかる。今回は、紙面の制限等のため参考例として掲載する。下記の画面を用いて A 大学と B 大学1 および B 大学2 の各グループにおいて「権利」という語彙が使用されている文脈を探索した(表8)。

表8は実習報告書の記述項目名ごとにわけてまとめている。また各項目の左にある区分は A=A 大学, B1 = B 大学1, B2 = B 大学2 のことを示している。

この表からもわかるように B 大学2 のグループの場合には、「権利」に関する記述が比較的多く出現している。3) でも述べたが、当該グループの場合には社会福祉協議会での実習生が大半を占めており、権利擁護事業や関連する成年後見制度の事業があるためだと思われる。

ただ一つの傾向として『2. 実習の内容』で「権利」に関する記述がある場合、『4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、学んだこと』でも「権利」に関する記述が出現する。また『1. 実習施設の概況と特徴』で「権利」に関する記述がある場合にも、なんらかの形で「権利」に関する記述が出現する可能性が高くなりそうだ。違う視点から見ると今回の表中には出現しなかった項目『3. 実習の課題』の中で実習生によって「権利」という記述に触れない場合でも、実習中に何らかの「権利」を意識することになり、最終的な報告書においても記述できるよう筋道が生じているのではないかと推測できる。

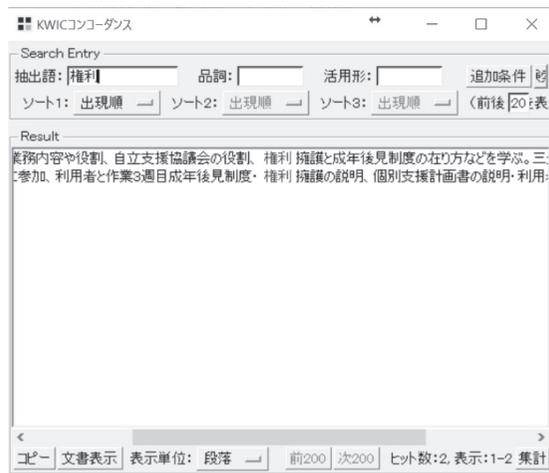


図4 KHによるKWICの使用例

表8 KWIC から見えること（実習施設の概況と特徴群）

	区分	内容 (1. 実習施設の概況と特徴)	区分	内容 (2. 実習の内容)	区分	内容 (4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと)
1	A	1. 実習施設の概況と特徴	A	2. 実習の内容	B 1	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
2	B 1	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
3	B 1	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
4	B 1	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
5	B 2	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
6	B 2	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
7	B 2	1. 実習施設の概況と特徴	B 2	2. 実習の内容	B 2	4. 利用者・職員と関わる中で感じたこと、 学んだこと
8			B 2	2. 実習の内容		
9			B 2	2. 実習の内容		
10			B 2	2. 実習の内容		

Ⅲ. 全国規模の調査から推測できること

本研究で使用した実習報告書は合計 50 名分であった。また A 大学と B 大学 1 および B 大学 2 という教育的な背景や地理的な背景等の環境因子は一切考慮していない。更にそれぞれのグループ内では異なる施設区分（例えば高齢，障害，地域等）で実習を行っている。

そこで本研究とは趣旨が異なるが、全国規模で行われた以下の報告書を引用して若干の考察を行ってみたい。

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（以下、社養協）が受託した、（公財）社会福祉振興・試験センター平成 26 年度社会福祉振興関係調査研究助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する調査事業」の 2 カ年度目（2 カ年度計画）の研究成果がある（2015）。その中の第 5 章「社会福祉士養成課程に在籍する学生を対象とした調査（学生調査）」では、今回筆者が行ったような実習報告書をテキストマイニングで分析するという手法が用いられている。

当該調査では、社養協の会員校のうち 10 校に協力依頼を出している。最終的に、A 大学（北海道ブロック・通学・四年制大学・私立）、B 大学（東北ブロック・通学・四年制大学・私立）、

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

表9 2005年度頻出上位150語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
利用者	5897	方々	633	創る	380
実習	4937	援助者	630	役割	378
思う	4025	難しい	312	気	372
自分	3993	介助	300	出る	370
考える	3561	良い	579	自己	367
子ども	2969	積極	577	本人	367
感じる	2716	思い	571	実感	362
職員	2412	一緒	562	部分	359
生活	2128	家族	555	場	354
施設	2110	相手	555	内容	353
行う	2005	自立	549	サービス	349
学ぶ	1897	学習	540	業務	349
支援	1738	ケース	527	社協	348
人	1736	接す	525	認知	344
必要	1683	行く	520	楽しい	340
理解	1550	感情	516	場面	340
大切	1491	話す	516	機会	339
見る	1370	経験	511	変化	338
援助	1346	環境	498	受ける	334
持つ	1335	把握	492	体験	331
出来る	1332	指導	490	担当	330
気持ち	1311	分かる	490	姿勢	323
コミュニケーション	1294	不安	489	深い	313
福祉	1147	方法	488	接する	313
関わる	1145	高齢	487	一つ	311
障害	1139	信頼関係	482	現場	311
多い	1134	目標	481	得る	310
地域	1131	他	477	立場	308
関係	1103	介護	473	勉強	306
児童	1090	伝える	464	最初	304
関わり	1054	意識	456	抱える	302
知る	1051	子	450	心	301
行動	1025	違う	447	築く	299
言う	957	状況	443	求める	298
ニーズ	917	ケア	440	事前	298
聞く	901	情報	439	過ごす	296
自身	884	捉える	432	考え	293
話	864	住民	429	人間	292
言葉	845	強い	423	存在	292
声	816	食事	423	深める	287
問題	797	入所	423	子供	286
活動	796	知識	422	目的	287
社会	760	会話	410	観察	281
重要	713	ボランティア	409	姿	281
参加	698	目	405	連携	280
相談	694	様子	402	家庭	279
対応	684	視点	399	センター	276
様々	680	状態	383	振り返る	276
課題	668	気づく	382	入る	275
作業	664	仕事	381	笑顔	273

出典：(公財)社会福祉振興・試験センター

平成26年度社会福祉振興関係調査研究助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する調査事業(2015)」から筆者作成

表10 2013年度頻出上位150語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
利用者	4196	視点	393	職種	238
実習	3009	社会福祉士	389	自立	237
支援	2970	会話	388	考え	231
自分	1958	他	387	M S W	229
職員	1599	信頼関係	380	入所	229
子ども	1402	良い	379	食事	226
生活	1370	意識	378	場	224
必要	1322	環境	371	ケア	220
理解	1289	方法	366	楽しい	217
施設	1244	思い	352	目	216
人	1147	一緒	344	機関	210
地域	1095	状況	341	表情	210
大切	963	援助	335	提供	207
コミュニケーション	907	サービス	329	センター	203
多い	770	業務	326	意味	202
関わり	710	高齢	326	観察	202
話	696	役割	322	説明	201
障害	673	経験	320	体験	199
自身	668	場面	316	機能	196
家族	659	住民	314	能力	196
気持ち	654	クライアント	311	力	196
行動	651	把握	310	訪問	193
言葉	645	目標	310	病院	189
声	611	アセスメント	309	目的	185
相談	609	内容	306	印象	184
福祉	595	ケース	298	介助	184
情報	586	方々	293	最初	184
関係	574	作成	287	存在	184
重要	567	認知	281	対象	184
ニーズ	556	利用	275	制度	183
課題	542	機会	274	身	181
活動	540	積極	272	一つ	178
児童	506	自己	270	一人ひとり	178
様々	499	感情	269	立場	178
計画	491	社協	269	手	177
難しい	479	不安	268	面接	176
作業	470	変化	266	笑顔	175
社会	470	担当	265	確認	174
参加	468	ソーシャルワ	264	技術	173
専門	463	強い	262	心	173
知識	455	介護	261	日常	173
相手	454	学習	258	可能	168
様子	437	質問	257	解決	167
患者	425	ボランティア	255	個別支援計	167
連携	414	部分	255	事前	167
指導	413	気	248	安心	165
対応	413	現場	248	価値	165
本人	107	仕事	245	少ない	165
事業	406	状態	244	身体	164
問題	399	実感	241	事例	163

出典：(公財)社会福祉振興・試験センター

平成26年度社会福祉振興関係調査研究助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する調査事業(2015)」から筆者作成

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

C 大学（関東甲信越ブロック・通学・四年制大学・私立）、D 大学（近畿ブロック・通学・四年制大学・私立）、E 大学（九州ブロック・通学・四年制大学・私立）、F 大学（中国四国ブロック・通学・四年制大学・私立）、G 大学（近畿ブロック・通学・四年制大学・国公立）H 大学（近畿ブロック・通学・四年制大学・私立）、I 大学（関東甲信越ブロック・通学・四年制大学・私立）、J 専門学校（関東甲信越ブロック・通信・養成施設・私立）からの協力が得られたようだ（2005 年度は 972 人（延べ 1,075 人）、2013 年度は 763 人（同 772 人）分の学生による報告内容を分析対象としている）。

特徴としては 2005 年度と 2013 年度のデータが準備されていること、また 10 ブロックから延べ 100 名を超える学生の実習報告書を入手できていることである。

表 9 および表 10 は 2005 年度と 2013 年度の頻出 150 語のリストである。ここで注目しないといけないのが、両表ともに筆者が前項までに見てきたような「権利」に関するキーワードが上がっていないことである。1,000 名を超える規模の実習報告書であっても上位 150 の頻出後として「権利」という語彙は上がってこない。

他の上位に位置している語彙に関しては、筆者が分析した結果とも類似しているのでサンプル的な問題ではないと思われる。

IV. 実習生に利用者の権利等を認識し言語化をしてもらうために

今まで見てきたように、実習中の具体的なプログラムとして利用者の権利等に触れることができると、実習報告書への言語化の可能性も高まると思われる。

特に記述項目名にあった「実習課題の達成度」「利用者・職員と関わる中で感じたこと、学んだこと」「今後の課題」のうち「今後の課題」の部分では利用者の権利等に関する記述を求めたい項目となる。

図 5 は実習生への促しをキーワードに作図したものである。実習生が利用者の権利等に気づくことは困難なように見えて、実際には見聞きし体験している可能性が高い。それが実習報告書の作成の段階で言語化できずにいるだけであるとも考えられる。そこで実習指導の教員や実習指導者が、利用者の権利等について積極的に認識できるように促すことが一つの解決策につながるのかもしれない。

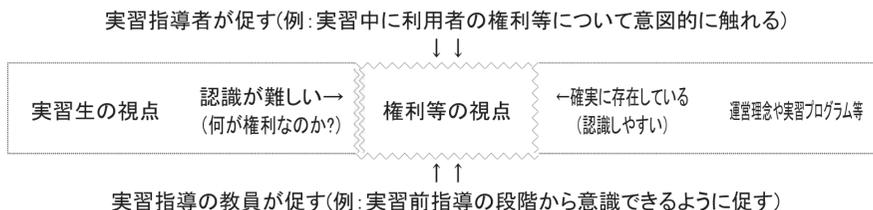


図 5 実習生が利用者の権利等を認識するための例

いずれにせよ利用者の権利等を認識することは重要な事項であり、またそれを促すための教員や指導者からの積極的なかわりは不可欠な要素となりうる。

V. まとめと課題

本研究では、相談援助実習を終えた実習生が作成する実習報告書をテキストマイニングによって機械的に探索を行った。その結果として、実習生は利用者の権利等に関して言語化することに一定の限界があることを見出した。実習中のプログラムとして利用者の権利等に触れることができた場合には、言語化の可能性が高くなっていた。このようなことから、利用者の権利等に触れる機会を意図的に設定することが大切であると考えられた。

テキストマイニングの手法により実習生の認識の一端が明らかになったが、具体的な解決策を提示するまでには至っていない。その要因としては、実習報告書という限られた分析対象のみを利用したことが原因の一つであると思われる。また後述するように、利用者の権利等に関して具体的な概念化を行っていないことも原因の一つと考えられる。

社会生活を行う上で他者の権利等を認識するのは、ある意味で呼吸をすることと同様に自然な所作といえる。社会福祉士目指す実習生の段階では、自然な所作から意図的に認識することも援助技術の一つである。養成科目の中で利用者の権利等を学ぶ機会が設定されているのであれば、相談援助実習の段階でも考察、検討を行う必要性が生じるのではないだろうか。将来的に社会福祉士を活かした専門職に就くかどうかは、実習生の権利である。しかし、社会福祉士を活かして専門職に就いた段階では、権利を主張する者から利用者の権利等を擁護する義務を帯びた者へと変化するのである。

具体的な行為や具体的な内容については認識することは比較的容易であるが、利用者の権利等のように可視化困難な内容については意図的に認識することが求められる。

本研究では、あえて利用者の権利等という広範な概念を用いることで実習報告書を分析した。分析対象となった実習報告書はサンプル数の少なさもあり障害や高齢、地域等の分野を統一せずに行ったのも一因である。通常、利用者の権利等を論じる際には、例えば子どもの権利や高齢者の権利、障害者の権利というように属性を統一することが一般的であることを付言したい。属性を統一することで、独特の権利性に触れながら認識している内容についても論じることが可能となる。ただし、属性を統一した際にも、少なくとも法学的な視点や社会学的な視点で論じることができるのも事実である。いずれかの部分で区分して論じることにより、明瞭な概念を見出すことができるのも事実であるため、今後の課題としていきたい。

またテキストマイニングの手法を用いて、利用者の権利等に関する用語の出現数を把握した意図としては、言語化された内容を可視化することで実習生や実習指導者、教員に客観的な判断材料を提供する一手法と考えたからだ。勿論、これらのことを一定水準で具体化するためには、誰もが利用できるという環境面での充足が前提となる。同様に社会福祉士の価値観に関すること、

相談援助実習を通して実習生は利用者の権利等を認識し言語化できるようになるのか

技術に関することなども可視化の対象と考えられる。もし言語化されていないということは、テキストマイニングにより可視化の対象とならない可能性が高い。相談援助実習の指導には、最終的に評価的な手続きが前提となっている。評価するためには、それまでに効果的な指導を行うことが前提となり、漠然とした指導を回避するための方法として当該手法を用いることは有効であると思われる。

今後は、実習前、実習中等で作成する事前学習教材やレポート、そして日誌等にまで視野を拡大し実習生が有している利用者の権利等に対する認識の枠組みを多角的に分析していきたい。

謝辞

実習報告書という貴重な資料を研究のために提供いただきましたことに、感謝しております。

注

- 1) 厚生労働省 (2008) 「社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて—I 見直しの全体像」 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-yousei/index.html (2015.10.1)
- 2) 本研究では施設の入居者、通所者そして様々な福祉的課題を有している者等を総じて利用者と呼ぶことにした。
- 3) 社会福祉士養成課程で履修する次の科目の中では、想定される教育内容の例として『人権』というキーワードが用いられている (相談援助の基盤と専門職, 地域福祉の理論と方法, 権利擁護と成年後見制度)。
- 4) また『権利』というキーワードを想定される教育内容の例の中に用いられている科目は以下の通りである (相談援助の基盤と専門職, 相談援助の理論と方法, 地域福祉の理論と方法, 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度, 低所得者に対する支援と生活保護制度, 権利擁護と成年後見制度, 相談援助演習, 相談援助実習)。
- 5) 本論では、利用者の有しているであろう権利性を総称して権利等とした。従って権利等の中には利用者の尊厳, 尊重や人権等の幅広い意味合いを有している。人間の認識として何をもって“権利”としているかは、受け手側の生育歴や環境, 思考方法等によって変化することが想定できる。また利用者が成人なのか, 未成年なのかという年齢的な因子によって発生する権利や法的な規定によって生じる権利, 社会的な習慣によって生じる権利など発生要因もさまざまである。本研究では、利用者の権利等という広範な概念を実習生 (受けて側) がどのように認識しているのかをテキストマイニングという単純な手法を用いて可視化することに目的の一つとしたため、詳細な検討を行えていない。今後の課題として権利等に関する個別具体的な検討を行い、何が利用者の権利等としていくのか、そしてどう担保していく必要があるのかを考えていきたい。
- 6) 本研究では特定の福祉領域における利用者を想定していない。従って利用者等という表現を用いる。
- 7) 例えば 2004 年度に文部科学省から出された「人権教育の指導方法等の在り方について [第一次とりまとめ]」などでは、人権教育の恒常的な取組の重要性を示している。続く第二次 (2006), 第三次 (2010) と継続的に提出された。
- 8) 樋口 KH Coder (2015) <http://khc.sourceforge.net/> (2015.10.31)。

文献

秦季之・堀井梢・松島裕貴・庚瀬順造・小野行雄・佐藤英治・吉富博則 (2013) 「テキストマイニングによる薬学実務実習日誌の解析」『薬学雑誌』, 691-701.

- 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会受託事業（2015）（公財）社会福祉振興・試験センター 平成26年度社会福祉振興関係調査研究助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する調査事業」、259-292.
- 村上信・三富道子・伊藤桜（2000）「利用者理解を促進するための実習指導プログラム—人権や人間の尊厳を大切にす視点から—」『介護福祉学』7（1）.
- 村田紋子（2012）「社会的養護内容」における学習上の留意点について～施設実習を目指した「子どもの権利」の理解～」『小田原女子短期大学研究紀要』第42号，29-38.
- 長野徹・武田浩一・那須川哲哉（2000）「テキストマイニングのための情報抽出」『情報学基礎』60-5，31-38.
- 大瀧ミドリ・高橋裕子・吉澤千夏・今村聡美（2009）「テキストマイニングによる教育実習体験の分析」『東京家政大学研究紀要』第50集（1），63-70.
- 大和田猛・加賀谷真紀（2008）「社会福祉援助技術現場実習生から見た特別養護老人ホーム職員のレジデンシャルワーカーとしての専門職資質をめぐる若干の課題—学生の自由記述による具体的把握を通して—」『青森保健大雑誌』9（2），109-122.
- 山本克司（2011）「老人福祉施設における関係者の人権意識から考察する人権の法的問題点への対応—老人福祉施設における関係者の聞き取りを参考にして—」『人間関係学研究』第17巻第2号，1-11.
- 吉村澄佳・尾原喜美子・村上歩・濱田佳代子・小松輝子・石上悦子・池内和代（2014）「看護学生が実習をとおして学んだ「子どもの権利を守る看護」—“説明と同意”に焦点を当てて—」『高知大学看護学雑誌』55-63